

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プリシア武蔵浦和	階数	地上8F
建設地	さいたま市南区白幡四丁目1000番1	構造	RC造
用途地域	準工業地域、法22条地域、指定なし	平均居住人員	164人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2027年10月 予定	評価の実施日	2025年3月18日
敷地面積	814㎡	作成者	
建築面積	477㎡	確認日	2025年3月18日
延床面積	2,680㎡	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 建築基準法を遵守し、居住者が不自由なく過ごせる空間を整備し、地域環境へも配慮した計画としている。		<b>その他</b> 0
<b>Q1 室内環境</b> 建築材料は、JIS.HAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に使用している。 Low-Eガラスを採用し、建物の熱負荷を抑制した。	<b>Q2 サービス性能</b> 鉄筋コンクリート造の劣化等級3の性能を確保している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物外部において、視線を遮らない樹木の配置、庭園灯による夜間照明、防犯カメラを設置し、防犯性に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱性能等級4相当を確保している。 主要な居室にはLED照明を採用している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ODO=0、GWP=3の断熱材を使用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> LCCO <sub>2</sub> 排出率を81%に抑えている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)プリシア武蔵浦和**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		基本設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	<b>2.9</b>	1.00	<b>2.9</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.50	<b>2.8</b>	0.50	
1 開口部遮音性能						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>2.0</b>	0.20	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.0</b>	0.35	<b>2.1</b>	1.00	<b>2.1</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.3</b>	0.50	
1 室温						<b>3.0</b>	0.63	<b>3.0</b>	0.63	
2 外皮性能		断熱性能等級4以上確保				<b>3.0</b>	0.38	<b>4.0</b>	0.38	
3 ゾーン別制御性						<b>3.0</b>	-	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						<b>1.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.7</b>	0.25	<b>3.5</b>	1.00	<b>3.3</b>
3.1 昼光利用						<b>3.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光率		居住部分で昼光率2.0%以上確保				<b>3.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50	
2 方位別開口						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
1 昼光制御						<b>2.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.2</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00	<b>3.6</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		環境対策として、下地材および仕上げ材はF☆☆☆☆を使用している。				<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>2.0</b>	0.40	<b>3.3</b>	0.38	
1 換気量						<b>1.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能		居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保している。				<b>3.0</b>	-	<b>4.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
4.3 運用管理						<b>3.0</b>	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>3.0</b>	-	-	-	
2 喫煙の制御						<b>3.0</b>	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.4</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応		機器、配線はギガビット対応とする。				<b>3.0</b>	-	<b>5.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース						<b>3.0</b>	-	-	-	
3 内装計画						<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		劣化等級3相当				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>2.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種以上にB、Eは不使用				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>1.8</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						<b>2.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>2.6</b>	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			-	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>					<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.1</b>
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.6</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能等級4以上確保	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.91	3.9	0.50	-	-	3.9
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価							
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		GL工法、LGSの乾式壁を採用	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3の断熱材を使用	4.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.8</b>
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率81%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			1.8	0.33	-	-	1.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	